

**大学入学共通テスト出願**

57期生は大学入学共通テスト(以下、「共通テスト」)の出願書類を書き終えました。校内での最終チェックの後、来月初旬に学校でとりまとめて発送する予定です。共通テストまでおよそ16週、いよいよ受験が現実味を帯びてきました。

57期生が受験する共通テストは、2つの日程が用意されていた昨年度とは異なり、来年1月15日(土)・16日(日)のみの日程で実施されます。感染症や事故等、やむを得ない理由がある場合に限り追試(1/29・1/30)を受験することができますが、万全の体調で仲間たちと一緒に受験できるよう、日頃から健康等に注意して生活しましょう。本校の出願者は、鹿児島大学会場等で受験する予定です。

共通テストは、国公立大学入試の一次試験としての役割のほか、私立大学入試等にも利用されています。大学や学部学科によって必要な科目や配点が異なるので、事前調査が必要です。1・2年生も、全クラスの本棚に並んでいる『蛍雪時代』を手にとって確かめてみましょう。

決意の後期

後期の1年生の課題は「文理コースの選択」、2年生の課題は「志望校の決定」です。

1年生にとって、文理選択は高校入学後初めての進路に関する大きな決断です。『進路の手引き』26頁や『キャリアプランニングノート』24頁以降をよく読み、よく考えて決定しましょう。保護者や先生方、先輩からアドバイスをもらい、『キャリアプランニングノート』81頁のワークシートも活用しましょう。文理選択に関する思考を文章化し、「見える化」することは、納得できる選択をするための有効な方法です。

2年生の秋は志望校を絞り込む時期です。「将来の夢」や「行きたい大学」などの明確な目標は、学習意欲の向上につながります。早期に学習意欲が向上すれば、幅広い知識を土台に「思考力・判断力・表現力」が求められる共通テストの準備に余裕を持つことができます。早期に「覚悟」を決めた者が、「自己実現」への道のりを、広く安全なものにできるのです。積極的に進路を検討しましょう。

振り返りと再構築

学習内容定着のために何度も復習することの重要性は皆がよく知っています。しかし、「授業と同じ問題なのにテスト本番でできない」ことがあるのはなぜでしょうか。それは振り返り方に問題があるからです。模範解答や解説を読みながら問題を「なぞる」という方法だと、「分かったつもり」で終わっていることがあります。以下に、「つもり」を防ぎ、定着度を高めるテクニックである「セルフティーチング」を紹介します。

①計算問題のポイントを先に把握する

例えば、「この問題は、面積比を線分比として計算すること！」と、実際に声に出して説明した後、手を動かして「解法の再現」に取り組んでみよう。

②読解問題の解答根拠を指さし確認する

例えば、記号問題の正誤に一喜一憂するのではなく、「この設問の解答根拠は、本文のこの部分(指をさしながら)で、it がさらにこの部分を指しているから、この設問の解答は、エ！」と、声に出して説明してみよう。なお、国語の読解問題で押さえるのは、文章が変わっても「抽象化」「因果把握」「対立把握」の3つだけである。

③逆一問一答をやってみる

例えば、「享保の改革後、商人の力を利用して幕府の財政再建を試みた老中は誰か？」という問いに、「田沼意次」と答えるのが一般的な一問一答だが、「田沼意次」という言葉を見て、「享保の改革の後、商人の力を利用して幕府の財政を立て直そうとした老中である」と自分の言葉で説明してみよう。難易度は高いが、理解は確実に深まる。

【参考：<http://www.ring.brigh10.jp/column/column-8755/>】

上記①～③に共通するのは、「声に出して」答えを「再構築」することです。何度でも自分の言葉を使って説明ができる状態になれば、その内容は完全に定着していると言えるでしょう。先日、「東大生は独り言をよく言う」といった内容の記事がありましたが、「声に出す」ことの有用性を示しているのではないのでしょうか。

後期が始まります。学習への意識を改めるにはよい区切りです。振り返りの質を高め、何度も「再構築」することで学習内容の定着を図りましょう。そして、後期の定期考査や模擬試験で成果を確認しましょう。

大学入学共通テストまであと113日。頑張り3年生！

今年の全国高等学校野球選手権大会は、雨天順延が多かったです・・。

自分(=廣瀬)は高校野球の指導に関わって37年目ですが、今年の全国高等学校野球選手権大会は記憶に無い7日の雨天順延となりました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、無観客での開催であったり、ブラスバンドやチアリーダー等の応援制限であったり、例年とは異なった形態でありました。それでも、昨年は大会自体が開催されなかったことを考えると、良かったのかもしれませんが・・。

5回終了後のグラウンド整備が、試合の流れを大きく変えることがあります。

野球の試合は9回(イニング)の攻防ですが、5回終了時点で「グラウンド整備」が入ります。その僅かな時間で、試合の流れが大きく変わることが度々あります。某高校野球部監督として、初めて臨んだ夏の県大会初戦。試合前半を優位に進め、5回裏にスクイズで6点目を取り、6-0とリードしてグラウンド整備に入りました。6回表、自軍の先発投手が突然崩れ始めました。相手チームの作戦は全て成功し、逆にこちらの打つ手は併殺打や継投等、何をしても全て裏目という、典型的な負け試合の展開になりました。

決して勝利を確信して油断するような精神的に未熟な選手達ではなく、最後まで「全力疾走」や「全力発声」で必死に戦ってくれました。しかし、7回コールドでの勝利目前から信じられない様な6-8の逆転負けを喫し、夏の1勝の感激を味わうことは出来ませんでした。今でも、当時の3年生部員達には申し訳なく思っています。夏の県大会での「勝負の厳しさ」を改めて知った敗戦でした。

「動の前期」から「静の後期」へ、高校生活の「グラウンド整備」に入ります。

2学期制の鹿児島中央高校は9月末で前期(=1学年前半)が終わり、「グラウンド整備」に入ります。入学式に始まり、クラスマッチや夏季休業、文化祭準備や体育祭練習に加えて、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による分散登校等、昨年の今頃は予想もしなかった状況である「動の前期」となりました。

それに比べて1学年の後半は、文理選択や進路研究、定期考査や実力考査、進研模試やハイレベル模試、読書や芸術等、「静の後期」と言えそうです。赤組メンバーの後半戦は、どの様な「試合展開」になるのでしょうか。前半の悪い流れを変えるには、「グラウンド整備」の時間を大切にする必要がありますし、前半の良い流れを維持するためには、努力を継続する「意志の強さ」が必要不可欠です(廣瀬説)。

赤組メンバーが体育祭学年練習で見せてくれた、学級・学年のまとまりやエネルギー、最後まで諦めない真摯な態度や粘り強さ等、今度は学習や進路研究、部活動や進路実現等にも発揮して欲しいものです。好きなことを好きな時にやるだけでは、駄目です。これからの後期が、皆さんにとって「充実した時間」になるように皆さんの「考動」に期待しています・・。(文責・廣瀬)

Great things are done by a series of small things brought together.

上記は「ひまわり」の作品で有名なゴッホの言葉です。（偉大なことは、小さなことの積み重ねによって達成される）と訳になります。皆さんにこの言葉のように、日々を過ごしてほしいと思い紹介します。

さて、夏休みはどのように過ごしたか、振り返って下さい。部活動、オープンキャンパス等それぞれが自分で立てた計画を有意義に実行したと思います。このような忙しい環境の中で夏休みは計画的に勉強を進めることはできましたか？計画的に勉強を進めることが出来た人は必ずこれからの定期考査、実力考査、模試で成果が出るでしょう。引き続き、気を緩めずに学習を続けて下さい。一方、計画的に進めることが出来なかった人は、まだ挽回を十分にすることができます。苦手科目から最優先にして学習を進めるのも1つの方法です。これまでの学校行事では1つの目標に向けて全員が一致団結して取り組んでいる姿がとても印象に残っています。それぞれが身につけた集中力を活かして、学習を継続して下さい。

前期が終了し、これからの高校2年生の後期で何ができるか、もう一度じっくり考えてほしいと思います。まず、各教科の授業や小テストをおろそかにすることなく、取り組んで下さい。定期考査の復習は、しっかり取り組んでいますか？復習をして何が出来ていて、出来ていないか。弱点を知り、次回に活かす。このような日々の小さな積み重ねが、将来に繋がるでしょう。夏休みのオープンキャンパス等で志望先の大学では、どんなことが学べて、大学卒業後はどのような進路を選択することが出来るのかを具体的にイメージをすることが出来たと思います。将来自分がなりたいと考えている姿が大学で学べる内容と一致していれば、次はその大学の入試科目を調べて、学習を進めることです。具体的な目標を定めるからこそ、努力をすることができます。

これから後期の学校生活を、全力で取り組むことが将来に繋がります。志望大学の合格のためには、日々の小さな積み重ねを継続して行っていきましょう。困難なことでも一生懸命、取り組めば必ずと道が開けます。困難を乗り越えるための知恵を日々の積み重ねから得ているからです。後悔が残らないよう絶えず勉学に励み、個々の目標が実現することを願っています。

プラス思考で実行あるのみ！

3年3組 副担任 末永広樹

「怠け心に負けるな」

アメリカの有名な行動心理学者の実験によれば、すべての欲望を満たされた人間が最後にすることは「ゴロ寝」だそうである。

このことは人間の行動のほとんどは、欲望に基づいていることを表しているが、我々は「怠け心」を持っているため、「自分は楽をしてすまそう」という気持ちをもつようになる。それが能力の高い人はいいが、そうでない人までがそういう気持ちをもつと、落ち着く先は逆境ということになる。人間が遭遇する不都合の原因のほとんどは「怠け心」に起因すると言っても決して言い過ぎではないだろう。君たち高校生は、毎日の勉強をどうやってサボるかになるわけであるが。

では「怠け心」をどうやって克服するか。

勉強のために机に座っても、気持ちを勉強へ向ける決心をすることが結局が一番難しいのである。何よりも肝心なことは思い切ってやり始めることである。

怠け癖のある人の特徴は、すべてを備えているけど、一つだけ欠けているものがある。

それは「実行」である。そういうときは余計なことを考えず、やらなければならないことを「実行」に移し、後から「さあやるぞ」と決心すればいい。

それから「言い訳」をしないことだ。怠け者の舌だけは怠け者ではない。

君たちの目の前にやってくる問題は、君たちが解決できない問題がやってくることは、まずない。必ず解決できるものばかりである。苦しく辛い時期もあるが、歯を食いしばって進路実現のために「実行」あるのみである。

「よい方へよい方へと思う」

「人生はその人の考えた※所産である」

人生はその人が「自分の人生ってこうだな」と思ったら、その通りになっているということである。

今の自分は過去の自分が思い描いた結果にほかならない。これからの自分は、今現在の自分が思い描く思いによって決定される。故に、「思い」というものは、いつも「自分にとって好ましいもの」にしておく必要がある。

ところが今苦しいと「この苦しみから抜け出したい」という思いが先に立って、良いイメージなど湧いてこないものである。

どんなことにも原因というものがある。原因の始まりは「心」である。良いことを思えば良いことが起きる。悪いことを思えば悪いことが起きる。

常に良いイメージを身につけ、これからやってくる進路実現に挑んでいこう。

※ 所産(しょさん)・・・ある事の結果として生み出されたもの。作り出したもの。